

東日本大震災第二次派遣調査チームレポート



2011年4月15日

坂本賢 村上康代

早川洋輔 小野久美子

- 目的

第一次派遣隊が支援活動を終了し約3週間経過した。

被災地の状況、支援スタイル、被災者のニーズも日々変化していると思われる。

そこで、4月18日以降に第二次派遣隊を予定しているが、その前に、被災者への「物資の支給状況」「医療体制の確認」「ニーズの変化」など現地の状況確認を行う事とした。

今回の調査チームは第一次派遣隊が物品提供時に作成した「物品受領書」をもとに、避難所を訪問し「効果的な二次派遣活動に向けた調査」が目的である。

- 日程

4月12日～4月14日

- 宿泊先

12日：フォルクローロ東和
岩手県花巻市東和町安俵6区
134番地

電話：0198-42-1011

13日：及川旅館
岩手県釜石市桜木町1丁目
2-9

電話：0193-23-5474



- 調査チームと担当

坂本賢（薬剤師、弘前地区地域責任者、チームリーダー）

全ての行動の把握、安全管理、情報収集

村上康代（薬剤師、専務取締役）

健康管理、被災者からの情報収集

早川洋輔（介護福祉士、本部福祉サービス課、第一次派遣隊メンバー）

車両管理、物資管理、食事

小野久美子（登録販売者、本部管理部係長）

定時連絡、DV記録係、受領書管理、現金の管理

- 現地サポーター

武政文彦氏（薬剤師）

武政美紀子氏（薬剤師）

- 調査対象地域

山田南小学校（第7次昭和大学医療チーム）

山田町船越地区

山田町大浦地区

山田町ボランティアセンター

山田町役場、物資センター

大槌町浪板地区



- 行動上の注意点

- 余震が続いているため行動には十分に注意する。
- 基本は4名で行動。自宅訪問時には2班（村上、早川組）（坂本、小野組）で行動。
- 地震発生時の集合場所の確認。
- ボランティアを装う盗難などのトラブルが発生している。自宅を訪問する場面もあるためネームプレート、名刺を携帯し、訪問先にはメンバーリストをお渡しする。

- 調査報告

当社、第一次派遣隊が活動を終了してから、約3週間が経過した。

被災地、今回は山田町を中心に調査活動を行う事にした。

まず、被災地入りした時の第一印象としては、

- 「ガレキの中で作業する住民、歩いている住民が少なくなった。」
- 「バス、電車が一部運転再開している。」
- 「自衛隊、警察車両が少なくなり、一般車両、民間企業の車両（タクシー、工事用ダンプ、建設業の車両など）が多くなった。」
- 「被災を逃れた地区のガソリンスタンド、食堂、商店などが営業を再開している。」
- 「道の駅、コンビニエンスストア、家電量販店は、品数は少ないが営

業を再開している。」

であった。想像以上のスピードで復興に向けて動いていることが感じ取れた。

<聞き取り調査>

1. 外部ボランティアスタッフより

早稲田大学学生ボランティアスタッフからの情報では、外部のボランティアはなかなか地元の方々に受け入れられない。

12日にこの団体が行った炊き出しは好評だったようですが、避難所スタッフには、なかなか受け入れてもらえなかったとの事。

高齢者のニーズの中に「子供たちが元気で笑っている事」というものがあった。お笑いのDVDなどもニーズとなっているようだ。

他には、半壊、一部損壊の家屋の床下から泥を取り除き、住める環境を



整えたいがなかなか作業が進んでいない。理由としては、コンパネを剥がしても、資材不足のため新しい床板が作れない。床下に湿気を含んだ泥を残したまま生活する事は、健康面への悪影響も予測され、何らかの対策が必要と思われる。

また、この地域の人間性についても語ってくれた。

我慢強い人間性で、ボランティアスタッフが、避難所近隣住民宅を訪問しニーズを探っても、「必要ない」「自分たちでできる」と断られるケースが多いとの事だった。

2. 昭和大学緊急医療チームより

昭和大学緊急医療チームは4月15日にて撤収することになった。

今回の震災で避難所に暮らす住民の多くは津波で家を失った人達だ。避難できた人はケガもなく、被災初期段階から緊急を要する外科的処置は少なかった。

(当社、第一次派遣隊活動時にも、震災10日目には緊急性の高い人、高

度な医療を必要とされる人は、すでに搬送済みとの情報を国立病院機構の医師より入手していた。)

そのため、昭和大学の医療チーム編成を早い段階で外科系医師から内科系医師へ変更し、さらには、歯科医師の派遣も行い対応していた。

昭和大学医療チームは、「巡回チーム」「診療所チーム」の2班で行動している。

「巡回チーム」は、朝に行っていたスタッフミーティングで、被災者個別の細かい対応を協議していた。

また、手指用消毒アルコールの使用方法などについても避難所での指導



を行い、一般向けの資料を製薬メーカーより取り寄せ配布していくとのことだった。

昭和大学の石崎課長補佐の話では、「山田町においては、医療過剰状態であり震災前の数倍の医療スタッフとなっている。現在、災害医療と通常の医療（僻地医療）が混在しているが災害医療を必要としている人が少なくなっている」「保険診療を行う病院や診療所、保険薬局も立ち上がった」ことなどが今回の撤収理由との事だった。

各医療チームは巡回診療を行っているが、「震災前の生活へ戻す」ために、町の医療機関を受診する方向へ徐々にシフトしている。

今後は、避難所から医療機関への「交通手段の確保」が課題であり行政も含めて整備しているところであるとの事。

(我々調査チームが避難所を訪問した際に、巡回バスの運行がすでに始まっていた。)

また、3月に山田南小学校の救護所を訪ねた時には、朝から並ぶ人たちを目にしたが、今回、訪問時には少なくなっていたことも補足する。

3. 自治体職員より

➤ 山田町保健師へのインタビュー

感染症に十分注意をしていることが避難所を訪問した時の被災者の話よ

り感じ取る事ができた。

保健師は、ドアノブの消毒、手の洗い方、手の消毒方法、調理器具の消毒、簡易トイレの消毒について指導を行っている。

また、現在、インフルエンザ、ノロウィルスの大規模感染症を警戒し、巡回時に、「〇〇避難所でインフルエンザが発生しているので接触を避けるように！」「ノロウィルス感染症が発生した。」などの情報提供も行っている。



る。

しかし、避難所では、希釈した次亜塩素酸ナトリウム溶液が PET ボトルに入れてあり、注意書き、希釈日などの表示がない場合などもあった。

➤ 山田町物資センター職員へのインタビュー

物資は十分にあるように見えた。米、野菜、洗濯機、紙おむつ、粉ミルク、軍手、鍋・・・多くの物資があった。

(避難所での聞き取りで、現在、物資リストが避難所に整備され必要なものを物資センターに FAX すると供給される仕組みになっている。その中には医薬品なども含まれている。)

物資センター内では、医薬品は別に区分しており、「持ち出し禁止」となっていた。しかし、避難所から依頼があった時、職員（非薬剤師）がパッケージを確認して払い出しているとの事。

さらに、この「持ち出し禁止」の医薬品の中には、全て英語表記の点眼液も存在した。

また、塩化ベンザルコニウム（医薬品）は消毒剤には違いないが希釈方法、使用方法には専門知識が必要であり、速乾性手指消毒薬（医薬品の物と医薬部外品もある）といっしょに分類され、「持ち出し禁止」とはなっていなかった。



医薬品の「基本的な区分」「払い出し方法」に疑問が残る。

この物資センターに薬剤師が関与することで、「希釈容器用ラベル」の作成、「希釈方法」「使用上の注意」などの情報提供が可能になり効果的と思われる。

▶ 山田町ボランティアセンタースタッフへのインタビュー

数日前より山田町ボランティアセンターが立ち上がった。

ボランティアの内容は、「炊き出しの手伝い」「ガレキ撤去の手伝い」など。

被災者個人からのボランティア依頼も募集しているが、「頼みにくい」「申し訳ない」などの理由からあまり集まっていないのが現状のようだ。ここにも、我慢強い人間性が現れているように思えた。

4. 避難所スタッフより



当社、第一次派遣隊が織笠コミュニティセンターを訪問した際の物資提供には大変感謝された。

しかし、現在、多くの避難所において、物資は十分に足りており「必要なもの」は特にないとのことだった。

織笠コミュニティセンターにおいては、かぜ薬、胃腸薬（一般用医薬品）などを「ご自由にどうぞ」と並べたところ、すぐに無くなってしまったとのこと。避難所スタッフとしては、必要分だけ持っていくと思っていたが個人のストック用になってしまった。それ以降は事務所管理とし、

必要時に必要な薬を手渡す事にした。

今回、4カ所の避難所を訪問したが、「必要なもの」としては、マヨネーズなどの調味料、お酒、コーヒーなど嗜好品となり、被災者たちが望むボランティア活動としては、炊き出し、お風呂などへ変わりつつあることが確認できた。

（当社調査チームが持参したりんごは大変感謝された。）

少しずつだが、足りないものは自分たちで購入するようになり、震災前しかし、逆に必要な物資は「避難所まで届けてもらえる」、医療についても「避難所まで巡回してもらえること」に慣れてしまった事が問題であり、

避難所スタッフは「この状態はいつまでも続かない事」「ボランティアスタッフにも仕事がある事」を被災者へは説明している。

学校が4月20日前後には始まるため、学校の避難所からコミュニティーセンター、集会場などへの移動も始まっていた。

5. 避難所近隣住民より

大槌町浪板地区、山田町大浦地区にて、避難所近隣住民の約10件にインタビュー調査を行った。

(当社、第一次派遣隊は訪問しなかった大浦地区を訪問。避難所は小学校、漁協センター、保育園の3カ所となっている。)

インフラについては、どちらの地域も、電気、ガス、上水道、下水道の全てが回復しているわけではない。バラツキがあった。

山田町大浦地区、船越地区は、同じ下水処理場を使用している。この下水処理場が被害を受け、機能していないため、トイレの使用には制限がある。

そのため、数件に1カ所。仮設トイレを設置し共同で使用していた。また、仮設トイレは定期的に汲取りに来ている。

避難所近隣住民へ「必要なもの」について調査したところ、ガソリンが入手できるようになったことで、宮古まで買い物に行っている。そのため特に「必要なもの」はないとのこと。

当然ですが、家が残っている方の多くは、車も無事である場合が多く移動は可能となる。そのためある程度のものは入手できるようになり、また、仕事にも出かけている。

被災者近隣住民も徐々に、震災前の生活に戻り始めている。



● 考察

今回、調査チームの目的は山田町における「物資の支給状況」「医療体制」「ニーズの変化」の確認を行うことであった。

➤ 物資、ニーズの変化

物資センターの、医薬品の管理体制に多少の問題はあったものの、「物資」

は十分と思われる量が確保され、避難所に供給される仕組みも整ってきているように思われた。

また、「ガソリンを入手し易くなったこと」「路線バスの運行再開」「町内巡回バスの運行」など交通手段が確保されたことにより、自分で必要なものを購入し、病院への受診も可能となる。

➤ 今後の不安材料としては人手不足

情報では、2～3ヶ月後に自衛隊が撤収するようです。

山田町では、自衛隊が物資センターからの「払い出し」、避難所、避難所近隣住民への「物資の搬送」を担っていた。撤収前までに、縮小し、業務移管を行えるのかが課題となります。



これは一例ですが、自衛隊撤収により人手不足が問題となることが予測されます。

同様に人手不足が懸念される点として衛生面で活躍されている保健師です。現在は多くの保健師が細かく巡回し対応しているようですが、撤収により夏

場に人手不足とならないかも不安ではあります。

地域によりインフラは整備状況にバラツキはありましたが、改善されつつあります。

また、徐々にではありますが、被災地は「震災前の生活」に戻りつつある過程にあり、そこへ、必要以上の支援は、被災者、地域経済の復興を妨げになる可能性が高く「支援の押しつけ」となりかねない。

そのため、現時点において、早急に二次派遣の支援は必要なく、自衛隊撤収直前に再調査を行うことが最善であると考えます。

● 結語

今回、二次派遣調査チームとして、再び岩手県山田町を2泊3日のスケジュールで訪問した。

当社、第一次派遣時に支援した避難所を再度訪問したところ、震災約10日後という初期段階で、避難所に直接必要物資を提供したことについて

非常に感謝され、第一次派遣隊の支援活動は「効果的な支援」あったことを改めて確認できた。

今回の調査において、被災者のニーズは多様化し、今後の支援は、「普段の生活に近いもの」「支援の押しつけにならないこと」「人間性、地域性を考慮しながら行うこと」が重要と考えられる。

最後に、被災地は確実に復興に向かっており、私たちが出来る事は、「この震災を風化」させないことだと感じた。

「最大の敵は無関心」



● 謝辞

本調査レポートは、東日本大震災第二次派遣調査チームの活動をまとめたものです。

この調査活動は、被災者の皆様、山田町職員の皆様、(株)町田アンド町田商会の皆様によって遂行することができました。

さらに、被災地にて、第7次昭和大学医療チーム様の御好意により、当社、第二次派遣への多くの情報をいただき深謝いたします。

最後になりますが、第一次派遣隊より引き続き、ご指導、ご助言を戴いた弊社代表取締役 町田容造、東和薬局 武政文彦氏に深謝いたします。

この調査活動を応援、ご協力いただいた全ての皆様に深謝し謝辞とさせていただきます。今後とも、ご指導のほどよろしく申し上げます。

坂本賢

添付資料

添付 1 : 行動記録

添付 2 : 放射線量記録

添付資料1. 第二次派遣調査チーム 行動記録

日付	時刻	日 程
2011年4月12日	14:35	町田アト`町田商会 本部(弘前) 発
	17:25	東和薬局 着
	17:30	フォルクローロ東和 チェックイン
	18:00	調査チームスタッフミーティング
	19:30	現地サポーター(武政夫妻)と夕食
2011年4月13日	5:40	フォルクローロ東和 チェックアウト。山田町へ出発
	7:50	山田南小学校 着。昭和大学災害医療チーム訪問
	10:10	山田南小学校 発
	10:30	山田町船越地区 山口義孝氏自宅 訪問(前回支援物資提供) 現状の確認と物資提供(消石灰・ピューラックス)
	11:00	山口氏自宅 発
	11:25	山田町海洋センター 着(現在、山田町のボランティアセンターになっている) 山田町のボランティアの内容と状況の把握
	11:45	山田町海洋センター 発
	11:55	山田町織笠コミュニティセンター 着(前回支援物資提供) 現状の確認(りんごを提供)
	12:25	織笠コミュニティセンター 発
	12:55	昼食
	13:35	山田町役場 着(支援物資の集積場) 物資状況の確認
	13:55	山田町役場 発
	14:10	道の駅やまだ 着(前回支援物資提供) 現状の確認(すでに通常営業に戻っていた)
	14:20	道の駅やまだ 発
	14:30	大槌町浪板交流センター 着(前回支援物資提供) 現状の確認(物資は充足している)
	15:20	大槌町浪板交流センター 発
	17:30	釜石市 及川旅館 着
18:30	調査チームスタッフミーティング	
2011年4月14日	7:00	釜石市 及川旅館 発
	8:10	山田町役場 着(支援物資の集積場) 再度支援物資の状況確認 保健師と面会 総務課より医療情報に関する資料をもらう
		8:45
	9:00	大浦漁村センター 着 現状の確認と物資提供(OTC風邪薬・便秘薬・目薬・体温計) 大浦漁村センター周辺の民家を訪問 現状の確認と物資提供(OTC風邪薬・便秘薬・目薬・体温計など) 大浦保育園 訪問 現状の確認(りんごと日本酒を提供/大変喜ばれた)
		10:45
	11:00	山田中学校 着 仮設住宅の状況確認(144棟建設中)
	11:10	山田中学校 発
	11:15	山田高校 着 現状の確認
	11:35	山田高校 発
	11:45	山田南小学校 着 昭和大学災害医療チームに挨拶
	12:10	山田南小学校 発
17:45	町田アト`町田商会 本部(弘前) 着	

放射線量の記録

* 今回、調査隊の移動中に各地の空中放射線量を測定しました

日付	時刻	放射線量 (μ SV)	場所	
2011.4.12	14:37	0.05	(株)町田 & 町田商会本部	青森県弘前市
	16:30	0.07	東北自動車道岩手山SA	岩手県八幡平市
	17:26	0.07	フォルクロー東和	岩手県花巻市
2011.4.13	5:30	0.07	フォルクロー東和	岩手県花巻市
	7:47	0.08	山田南小学校	岩手県下閉伊郡山田町
	10:06	0.10	山田南小学校	岩手県下閉伊郡山田町
	10:40	0.08	山口義孝宅	岩手県下閉伊郡山田町
	11:23	0.08	山田町海洋センター	岩手県下閉伊郡山田町
	11:53	0.07	織笠コミュニティセンター	岩手県下閉伊郡山田町
	13:35	0.07	山田町役場	岩手県下閉伊郡山田町
	14:07	0.07	道の駅やまだ	岩手県下閉伊郡山田町
	14:30	0.08	波板交流センター	岩手県上閉伊郡大槌町
	17:00	0.09	釜石市及川旅館	岩手県釜石市
2011.4.14	7:05	0.09	釜石市及川旅館	岩手県釜石市
	7:45	0.07	山田町船越地区の海岸	岩手県下閉伊郡山田町
	8:10	0.07	山田町役場	岩手県下閉伊郡山田町
	9:00	0.09	大浦漁村センター	岩手県下閉伊郡山田町
	10:35	0.12	大浦保育園	岩手県下閉伊郡山田町
	11:05	0.08	山田中学校	岩手県下閉伊郡山田町
	11:14	0.07	山田高校	岩手県下閉伊郡山田町
	12:00	0.07	山田高校	岩手県下閉伊郡山田町
	15:08	0.06	東和町ローソン	岩手県花巻市
	16:48	0.05	東北自動車道花輪SA	秋田県鹿角市
	17:47	0.07	(株)町田 & 町田商会本部	青森県弘前市